

恥を忍んでドジ踏んだ話明かしちゃいます。それもつい最新はやほやのヤツ。まったくもってアホな話で、聡明なるシリアスの皆様には参考にも後学の為にもならないお話ではありますが、まあ聞いてやって下さい。

5月4日、蝶ヶ岳山行の時のことです。あの日は発達した低気圧の影響で台風並みの強風に見舞われた関東地方は大荒れ、鉄道各線で運休や遅れが相次ぐ生憎の天気となり中央線もかなりの遅れが出ていました。集合時間は八王子駅前8時半、30分位の余裕をもって家を出たのですが、遅刻しそうになり少し焦っていたのは確かです。八王子駅にギリギリ8時半頃到着した私は急ぎ足で駅前ロータリーを跨ぐ自由通路の階段を下り2〜3歩踏み出した時の事でした。私は突然足をからめて前のめりに転倒、顔面から通路に突っ込んでいたのです。

弛んだ靴紐を踏んだだけなら、オッ、トッ、トーと歌舞伎役者のように片足あげてたたらを踏む位で済んだのですが、登山靴の固定されたフックと靴紐のワッカが直接ガチッとからんでしまったようで、防御姿勢をとるゆとりも何も、いきなりのドデッ！！、顔面から突っ込んでしまったのだから、たまったものではありません。一瞬何が起きたか分からず「大丈夫ですか？」と駆けよってくれた通行人が3〜4人、眼鏡はバラバラ、眼鏡の枠が当たったのか左頬から血が噴き出し、無意識に突いた左手中指からも血が滲みズキンと痛む。指先って結構痛いものです。

角を曲がれば仲間がいるのでと、やせ我慢して心配そうに駆け寄ってくれた見知らぬ通行人の方から逃げるように離れたのは恥ずかしかったからなのであります。

集合場所の駐車場に行くと、皆ビックリ、傷は深いしこれはすぐ病院へ行くべきと促されました。実は小生、自慢じゃありませんが十数年前に奥秩父・釜の沢東俣で立木に当たって右頬から出血、応急処置しただけで河原で一晩を明かし、翌日も遡行続けて翌々日に帰宅し地元の病院で7針縫合してもらったという過去がありまして、その経験から額付近はすぐ出血するが、そんな大ごとではないという思いがあり、止血済ませてそのまま蝶ヶ岳へ向かおうと思っていたのですが、説得されました。で、結局は休日であるために開いている病院は不明、駅前交番のお巡りさんから救急車呼びなさいと勧められて人生初めての救急車搬送という大ごとになってしまったのです。

受け入れてくれた八王子・北原国際病院はすぐ治療に当たってくれ、結局9針縫いました。山への未練はありましたが、大事をとり登山は中止し一人寂しく帰宅したのですが、まったくもって人生一寸先は闇>何が起こるか分からないものであります。

賢い皆様には決して起こり得ないバカらしい失敗、気を使った仲間は、沈黙を守ってくれ、黙っていれば知られないで済む事でしたが、何かの警鐘になればと思って敢えて恥を明かす次第です。抜糸は1週間後、地元の病院でもらいました。



通常はAのように靴紐は一番上のフックまで掛けて縛る。あの日は横着してBのようにフックに掛けず、靴紐を足首に巻いていた。

両足共にBの状態であらう歩いていて、矢印のフックが楕円印の靴紐ワッカを引っ掛けてしまい、そのままズデッと前のめりに顔面から転倒した。